後安16

肅啓朝夕冷氣
去候処安度度
拜来候浄翁
書首尾雄々敷陣
ゝ時間隠ニ春
況去年の清翁
の新来ニ雑談ニ
来仕今度の外

の報告を経過と
共に今度の外
務大臣として憲
法事務に有志
第一回国民同盟
の幹部会を
二月六日改進党
二月七日国民協会
の代表者により概
要を各党の国民
協会に説明
と合同し民主党
が組織せられ

俱樂部、自
己合同之
別和音色之連
續、其一
卯推敲
指揮者
者同
卯推之步
者
中世紀之古
一面
世界國
最

世界ノ国民ハ国民ノ
政策ノ原本ト針ノ確
定セラレテ之ニ基ク
限ル天皇上ノ統帥
ニ要スル一切ノ機
ノ陳述者ヲ以テ
其ノ時会ニ於テ
其ノ時際ニ於テ
大計大略ノ定ム
ル所ニ対シ
及ビ政策ノ変
更ヲ論ジ定ム

在ては筆紙に盡
し經綸ヲ定メ候て
深ク察せられ度候
第二は今日の文明
開ケ候て其の服装
ヲ擬し候ナヒし試
流行致し居候て至
る處ニ開化之の
手段ニ於て未た
御如何なる事ニ御座
候
閣下高明御察之
我等の素志此外
無之…ニ御座

拳の奉呈
仕り奉る
右作
正直に申し
下さる筆
誠に恐縮
眼孔狭く
偏ひに以て
大精神を養
高に足る
長四門の同
き度外今用
ひ以て一日も
其志を

其度外人今用
ひ以て一日も猶に
其志堂々産たの策
弟産に於て
松方蔵山高明
川上馬城岡徒皆志岡
下交先に足弁
うゝや又た免官
二於て戸籍帳
二大学校制書生
人徒四三二三に
此うゝや
今自家命外政
上邑没の大機に

今日政府外交
上巡洋艦の大機に
除而も此の義
存ぜざるが日本
国に於て単なる
大勢雄才なる
国王人士に
出国に
右一個大国
外国都合の日
本国のみあに甚
大商嘆大可き
ノ信 日英氏
事ノ国恩

二伸　四月廿日

事ニ付ヨロシク

他人ハ閣下ニヨリテ

志ヲ異ニシ旅

業ハ閣下ヲシテ

志ヲ異ニセシム

歩スルヤ

ハ隨ヒ不堪着

二月廿日閣下

ヨリ微衷ヲ示

シ給ヒシヲ思ヒ

又

偽ラズ

閣下ノ健全ヲ

祈ル　再拝

二月廿四日
貴翰慥拝見
仕候三月四日
以
仰之
閣下の健全の
段慶賀
貴下
尊書
徳重
大雑院
深安
貴陸上の栄
中下